

問 予算計上のあり方について問題はなかったか

田中広二 議員



答 手続きについては少し欠けた点があった。真摯に受けとめたい

高梁市と吉備国際大学の立ち位置を問う
田中 美術修復村の構想が浮上したが、その後の経過を問う。
総務部長 3月議会以降現在まで3回程度の協議を行っている。具体案に関する協議の中で実現可能な方向性を大学とともに探っている。
田中 協議の過程が長い。やる気の問題ではないか。
副市長 やる気があるからやっているわけでも、もちろん地元協力がなく

では成り立たないことだと思っている。
田中 債務負担行為を議案として議会に提出する手順に問題はないか。
市長 議論に関する手続きについては少し欠けた点があったかと思う。今後、真摯に受けとめさせていきたい。
観光資源としての旧吹屋小学校の活用について現状を問う
田中 ゴールデンウィークの特別公開時に時間設定の問題で、見学ができ

ず苦情があったと聞くが実態はどうか。
教育次長 午前10時より午後3時までの公開を設定していたが、その後に見学の希望者があった。
田中 その見学希望者の対応がどうであったのか、非常に不満で遠方からの観光客であったと聞く、ひんしゆくをかけたことは今後の観光客の足止めになる。現時点の平日でも観光に訪れる人が多いが土日の公開はできないか。また、夏休みの

期間を含めて公開の考えはないか。
教育次長 現状では、盆の期間、秋の行楽シーズンの公開を検討していきたいが、建物の強度、安全性などの問題がある。
備中高梁駅の協議過程を問う
田中 バリアフリー橋上改札駅、駅前開発などの一連の予算が平成23年度当初予算に提案され可決された。その予算が未執行で減額補正を可決。そして、今議会に補正予算

で提案され議会の議決が注目されている。議会は執行部の追認機関なのか、議会の真価が問われている中で、駅前開発と駅バリアフリーとは切り離して取り組むべきと考える。
また、バリア新法の定める財政負担割合と本市の財政負担の整合が図られるべきと考える。市民の理解度、熟度を見極め市長選挙の行方を見定め取り組まれることを望む。

問 インターチェンジを生かした町づくりを求める

倉野嗣雄 議員



答 新総合計画で検討していきたい

地域振興について
倉野 旧市町単位での特色を生かした地域振興を考えていくべきではないか。
市長 全体としては新市建設計画や総合計画で示しているが、地域の特性を生かすために都市ビジョンの地域診断を行うこととしている。商工会や地域の方と一緒に考えていきたい。
倉野 高速道路のインターチェンジを生かした町づくりとして住宅施設整

備は考えられないか。
市長 高梁市において有漢地区はなだらかな地形であり、空家の再利用も含めて住宅も考えていきたい。スマートコミュニティもおもしろい考えであり新総合計画で検討していきたい。
交流人口の拡大について
倉野 有漢スポーツパークの野球場をもう一面増設することによって多くの人が高梁市へ来られ、交流人口の拡大につながるのではないか。

教育次長 有漢スポーツパーク利用者の29%が市外の人となっており、スポーツ交流人口は確かに増えている。野球場の充実については、有漢地域まちづくり協議会から要望があり、現在担当課で検討している。
倉野 有漢社会教育センターの増設はできないか。
教育次長 全体としては市内の他の施設とのバランスを検討し、利用促進を図りながら行財政改革

の中で整備の方向性を示していく。
安心・安全のまちづくりについて
倉野 消防団員が減少していく本市において、分団の再編も考えていく必要があるのではないかと。また、東分駐所の設置も考えなくてはと思うがどうか。
消防長 分団の単位は30名以上と考えており、当面の間は対応できると考えているが、再編も判断する時がくると思ってい

る。東分駐所については合併協議会、市議会の全員協議会での協議により、1署1分駐所体制となった。この2カ所の体制で救急、火災等の対応に当たっている。今後、防災力を高めるべく常備消防、非常備消防、そして自主防災組織の協力体制をつくり、連携を図りたい。



問 職員人事について

長江和幸 議員



答 適材適所に対応している

職員の人事について
長江 本年度も機構改革に伴い新設部署等へ対応した231名の職員配置をされているが、適材適所の人事ができたと考えているか。
総務部長 機構改革に伴い適正な人員配置をするということがまず1点。また、行革に伴い退職者が多くなっており、この退職者に対し事務職員は2分の1の採用にとどめ、退職と採用のある程度のバランスをとってい

くことがもう1点。3点目は女性職員の登用に配慮をした。そして、事務事業の熟度を上げていくという、そういう専門的な職場もあるため、そういったところにも十分配慮し適材適所に努めた。今年度、また例年を通じての目的、目標であり、こういったものを目指している。職員配置を今年度させていただいた。
在宅酸素療法の電気代助成について
長江 不自由な生活を余

儀なくされている市民に非課税世帯と課税世帯の線引きをやめ全世帯に助成すべきではないか。
市民生活部長 現状を踏まえ総合的に検討する。
急速充電器について
長江 電気自動車の充電代を徴収すべきではないか。
市民生活部長 県と市の協定の中で設置している。今後県との協議の上で考えていく。

FC高梁吉備国際大学シャルムのなでしこリーグ参入について
長江 スポーツは瞬時に高梁市を全国発信することができ、魅力がある。残念なことに当市は、なでしこリーグ基準(天然芝で1000席以上の観客席の整備などを満たした競技場がない。それでは交流人口、経済効果が生まれない。同リーグの基準を満たした県営スタジアム建設の誘致を願う。
政策統括監 シャルムは

市民の誇りという機運の高まりを追い風として市としてできる支援について検討したい。
副市長 市民の熱い思いで後押ししていただければ、一生懸命頑張らせていただく。
簡易水道未給水地域の早期解消について
長江 定住対策・定住促進の観点から簡易水道未給水地域の早期解消に対処すべきではないか。
市長 順次、未給水地域を解消すべく努力する。

問 高梁駅整備はバリアフリーのみを見直すべきではないか

川上博司 議員



答 設計費の予算化は今がタイムリミットで変更できない

川上 『都市ビジョン街なか編』という計画を策定したのは、市庁舎の建て替えと高梁駅整備を正當化するために作られたのではないか。「駅のバリアフリー化事業のみ(総事業費3億円)を行う」とすると8年待たなければならぬので、すぐ実行できる駅の橋上化と西口駅前広場整備(総事業費約10億円)を選択しなければならぬと言われるが、おかしいのではないか。事業主体はあく



現在の高梁市役所本庁舎と元市民会館

までもJRであって、市は促進していくべき立場だ。が主体者ではない。バリアフリー事業のみの交渉をもつと行うべきだ。

市長 バリアフリーのみだと長期間待たなければならぬ。駅周辺整備を合わせた事業で2年後には完成するので、今がタイムリミットである。
川上 市庁舎の建て替えについても計画は進行中で、私も仕方ないかなとの思いで賛成してきた。しかし、5月20日に鳥取市で行われた市庁舎建て替えに対する住民投票で、民意は「もったいない。耐震補強すべき」の結果が出され、建て替えを推

進していた市長、議会も方針転換せざるを得なかった。この報道を目にして、近隣の市役所の状況を調査した。新見市はリフォームをして今後、耐震補強を行うとのこと。総社市は建て替えも耐震補強も予定なし。笠岡市は耐震補強の予定とのことであった。また、周辺地域の方から「本庁舎にはほとんど用がない。地域局で十分対応できる」、「地域局の職員はほとんど減らされ、地域は寂れ、本庁

舎との距離がどんどん遠くなっている。市庁舎の建て替えをしている場合か」との厳しい声を聞く。住民の審判を受ける機会が9月末にあるので、審判が下された後に建て替え計画決定をずらしてもいいのではないかと考えるがどうか。
市長 合併特例債の期限である平成26年度までに行わなければならないので、計画をずらすわけにはいかないと考える。